

## 令和元年度 事業報告書

令和元年度の我が国経済は、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善等により内需を中心に緩やかに回復している。昨年10月実施した消費税率の引き上げに当たっては、経済の回復基調に影響を及ぼさないとの観点から軽減税率制度など政府による各種の対応策を実施している。

今後、消費税率引き上げ後の経済動向を引き続き注視するとともに台風等の被害からの復旧・復興の取り組みを更に加速し、併せて米中貿易摩擦、新型コロナウイルス蔓延など海外発の下方リスクによる悪影響に備える必要がある。

LPガス産業界においては、近年の電力・都市ガスの小売り全面自由化に伴い、都市ガス市場が市場開放されたが、他方ではエネルギー間の競争が従来にも増して激しくなっている。このような状況にあっても、LPガス産業界は昨年にも続き災害時においても強い力を発揮できるLPガス利用の特性を生かした非常用発電機やGHPなど、都道府県・民間レベルでの常設の動きを目指して事業が展開された。

こうした中、令和元年のLPガス用容器の生産実績は、対前年比15.1%増の184.3万本と好調に推移した。内訳として20kg容器の生産は対前年比16.8%増の67.5万本、主力の50kg以下容器については対前年比14.9%増の110.0万本となった。また、自動車用・その他の高圧ガス用容器を含めた全体の生産実績は、対前年比15.2%増の192.8万本と前年実績を上回った。

また、バルク貯槽の生産実績は、対前年比14.3%増の1万4千4百基と3年連続の増産となった。

このような状況下で、当工業会は、2019年度事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

### 1. 生産、流通に関すること

会員各社から容器及びバルク貯槽の生産・在庫状況を収集し、需要動向の把握に努めた。

(1) 容器総生産実績は、1,928千本（前年同期比115.2%）となった。内訳は以下のとおり。【令和元年暦年、カッコ内は前年比】

①10kg以下LPガス用容器	68千本（102.4%）
②20kg	675千本（116.8%）
③50kg	1,100千本（114.9%）
④500kg	301本（95.0%）
⑤自動車用容器	14千本（102.1%）

⑥その他ガス用容器 70千本（122.6%）

(2) バルク貯槽生産実績は、14,459基（前年同期比114.3%）となった。内訳は以下のとおり。【令和元年暦年、カッコ内は前年比】

①100kg以下	0基（—%）
②150kg以下	549"（163.4%）
③200kg以下	80"（266.7%）
④300kg以下	4,192"（100.6%）
⑤500kg以下	4,127"（100.3%）
⑥1トン未満	5,511"（137.5%）

## 2. 溶接容器の技術向上

- (1) 技術委員会を中心に溶接容器及びバルク貯槽の品質保持・向上に関する検討を行った。
- (2) ISO/TC58国内委員会に委員を派遣し、ISO基準の見直し・策定などに協力した。
- (3) 高圧ガス容器規格検討委員会に委員を派遣し、例示基準案作成等に協力した。
- (4) 移動容器規格委員会に委員を派遣し、検査基準の見直し等協力した。

## 3. 保安の確保と安定供給対策

- (1) 生産物賠償責任保険の更新  
容器を起因とした万一の事故による賠償責任に備え、令和元保険年度（令和元年10月1日～令和2年9月30日）の生産物賠償保険を継続付保した。
- (2) 政府の保安対策等への協力  
経済産業省産業構造審議会専門委員として、審議会傘下の高圧ガス小委員会での審議に参加し、高圧ガス保安施策の策定・推進に協力した。
- (3) LPガス安全委員会への参画  
LPガス安全委員会に会員として参画し、消費者保安体制の強化及び事故防止体制の推進に協力した。
- (4) LPガス容器くず化処理  
LPガス容器くず化処理マニフェストの発給依頼のあった認定事業所に対し同マニフェストを提供し、確実にくず化処理に活用した。  
認定事業所における令和元年の容器くず化処理本数は886千本（前年同期比122.2%）となった。

#### (5) バルク貯槽くず化処理工場認定

工業会内に設置したバルク貯槽処理工場認定審査委員会を6月に開催し、申請書を審査した。その結果に基づき、7月の理事会で3社（3工場）について認定。（認定事業者）両元産業(株)、九州高圧(株)、中央ガス工業(株)。

#### 4. その他の事業

##### (1) 関係官庁、関係機関等からの情報提供

経済産業省等の行政機関及び高圧ガス保安協会をはじめとする関係機関・団体からの依頼・情報提供を受け、会員への周知、各種資料の配布を行う等必要な情報提供に務めた。

##### (2) 統計等の作成及び情報提供

溶接容器、バルク貯槽の生産統計及び会員名簿等を作成・配布するとともに、工業会ホームページを通じて情報提供を行った。

##### (3) 関係団体等との連絡、情報の交換

LPガス関係団体事務局連絡会、鉄鋼製品団体協会会合に参加し、関係業界相互間の情報交換を行った。

#### 5. 会議の運営状況

##### (1) 通常総会

令和元年5月に第43回通常総会を開催し、平成30年度事業報告書案及び収支決算書案等並びに2019年度事業計画書案及び収支予算書案を審議し、議決した。

##### (2) 理事会

令和元年度は7回の理事会を開催し、総会への附議が必要な事業報告書案、収支決算書案、事業計画書案、収支予算書案、について審議し、議決した。また、各委員会の開催報告に基づく検討の結果、必要に応じ業務執行を決定した。

##### (3) 監査

令和2年4月に令和元年度の収支決算について監査を実施した。

##### (4) 委員会活動

###### ① 運営委員会

令和2年3月に開催し、令和2年度の事業計画書案及び収支予算書案について検討を行い、これを作成した。

###### ② 技術委員会

令和元年度は6回の技術委員会を開催し、溶接容器・バルク貯槽の品質保持を中心とした検討を行ったほか、物流コストの高騰を踏まえて各社の物流実態調査、容器の充填期限表示の西暦化への変更について(5/1以降実施)、新型コロナウイルスの影響調査とその対応について検討し、また、外部委員会出席委員からの報告を基にした意見交換等を行った。

③容器処理委員会

令和元年6月に開催し、容器くず化処理状況、バルク貯槽くず化認定工場等を巡る課題等について意見交換を行った。また、11月に現地研修会を実施し、日本ドラム(株)富津工場等を視察した。

④物流改善WG

前述のとおり技術委員会が実施した実態調査を踏まえ、令和元年9月、各社営業担当者等から構成されるWGを立ち上げ(10名)、関係事業者への要望事項を策定した(10月にHPに掲載)。

6. 庶務的事項

(1) 役員の異動

令和元年10月、中村博年監事から中野敏監事へ交代。

(2) 委員長の異動

なし

(3) 会員の状況

	平成 30. 3. 31 現在	平成 31. 3. 31 現在	令和 2. 3. 31 現在
正 会 員	6	6	6
賛 助 会 員	26	26	28
バルブ関係	3	3	3
容器処理関係	22	22	24
バルク関係	1	1	1
計	32	32	34

(4) 表彰関係

令和元年度高圧ガス保安協会会長表彰受賞  
保安功労者 萩尾広典 萩尾高圧容器(株)社長

以上